

保護者の方向け 吃音についてのお話 Part 4

学校生活を送る中で、吃音の症状が出るため、お子様によっては苦手な場面があることがあります。例えば、音読や発表、授業の号令や新学期での自己紹介などに苦手意識をもつお子様もいるようです。

お子様が支援を希望された場合の支援方法の一例をご紹介します。

音読、発表、号令の支援方法

(1) 周囲に吃音のことを伝える

お子様の周りの方々（先生や他のお子様）に吃音に関してお伝えしておくとお子様も安心感を持ってお話が出来る場合があります。

(2) 斉読

『保護者の方向け吃音についてのお話 3』の「②斉読をする」のように、1人で言うのが難しい場合は、2人1組で言う等の方法を取ると言いやすくなる場合があります。



自己紹介の支援方法

(1) 周囲に吃音のことを伝える

お子様のご希望があれば周囲に吃音のことをお伝えすることで安心感を生む場合があります。

(2) 学校の先生に実施方法の相談を行う

どうしても言うことが難しい場合、先生と一緒に自己紹介を行った（斉読）、事前に用意した文章を見せながらお話をしたり、お子様の希望する方法で実施可能な方法を先生と話し合うことも一つの方法です。

例えば、「あ」が言い難いと感じる場合、「あした」を「○日（次の日にち）」等と普段の会話の中で別のことばに言い換えることもできますが、自分の名前は他のことばに言い換えることが出来ないため、『自己紹介』等に苦手意識を持つ場合があります。

そのような苦手な場面では上記の様な支援方法が有効な場合がありますが、全てのお子様が支援を希望される訳ではないため、まずはご本人の希望を確認する必要があります。

支援を希望される場合、「先生や周囲にどのように吃音のことを伝えるか」等、当課ではお子様や保護者の方と一緒に言語聴覚士が支援の方法を考えることが出来ますので、何かお困りのことがございましたら、ご相談ください。

【参考文献】

菊池良和（2014）『備えあれば憂いなし 吃音のリスクマネジメント』学苑社

菊池良和（2015）『吃音のことがよくわかる本』講談社

小林宏明（2019）『イラストでわかる 子どもの吃音サポートガイド
1人ひとりのニーズに対応する環境整備と合理的配慮』合同出版